

「呉高専 空き家再生への取り組み」のご紹介

情報編集委員会青年部 藤井 真弓

会報誌5月号で掲載させていただいた、呉工業高等専門学校（以下、呉高専）の活動紹介第二弾です。現在取り組まれている、空き家再生の取り組み「石段の家2号館リノベーションプロジェクト」をご紹介します。

夏休みを利用し、8月の4日間で空き家改修が行われるということで、初日に見学に向いました。場所は呉市両城。急斜面の階段状の場所に住宅が展開しています。呉のまちを一望できる、見晴らしの良い景色に感動です。・・・が、真夏の炎天下で、辿り着くだけでふらふらです(泣)そんな中でも、学生さんたちは精悍な動きで作業をされ、皆さんが疲れ知らずのさわやかな挨拶を返してくれるのに圧倒されました。



石段の家2号館 大改修がスタートしました



景色最高！ですが、急な階段を登ります

プロジェクトリーダーは、建築学科5年 小田原 祐香さん。約30人の1～5年生をまとめています。メンバーは建築学科のみではなく、機械系等からも参加されており、学科の垣根も超えて集まっています。学年・学科が異なるメンバーをまとめるのは難しいと思いますが、一人一人の役割や、割り振りを考えながら、皆で協力し進めているそうです。学生主体となり、必要なときには、先生方や、学校外の協力して下さる方々にアドバイスを頂きながら疑問点を解決しているそうです。4日間で全作業を終了させるということで、厳しいスケジュールかと思いましたが、「終わらせませす！」と力強い返事が返ってきました。頼もしいリーダーです！

建築学科1年 花岡 歩果さんにもお話をお聞きしました。約半年前に中学を卒業したばかりと思えないほど、しっかりされています。



小田原 祐香さん



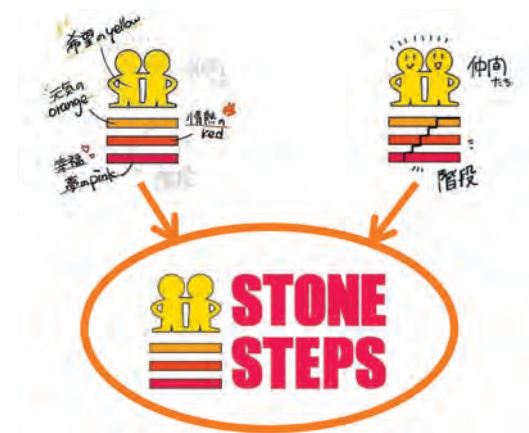
花岡 歩果さん

自宅をリノベーションしたことや、お母様が土木のお仕事をされている土木女子（ドボジョ！）ということで、建築に興味を持ったそうです。このプロジェクトには、最初からではなく、つい先日入ったばかりだそうです。途中からだ分からないことも多いかと思いますが、先輩方に教えてもらいながら、協力して作業を進めているそうです。入る前からこのプロジェクトに興味を持っていたそうで、楽しそうな笑顔がとてもまぶしく、印象的でした。

伺ってすぐ、お揃いのTシャツを着て作業しているのに気がつきました。一体感があっていい感じですね。それをデザインしたのが、建築学科3年 井野 菫（いの あやめ）さんです。4色の色に意味を持たせ、それに向かいみんなの意志をひとつにする事を考えてデザインされたそうです。デザイン担当を決めるときに、井野さんは自発的に担当になりたいと思い立候補し、みんなをまとめるひとつのきっかけになればと思い取り組んだそうです。Tシャツができ、チームワークも良くまとまり進められているので、最高の表情で取材に応じていただきました。



お揃いのTシャツです。真ん中が井野さん



【Tシャツのデザイン画】

初日には、床材の張替えや、新たに設けるピザ釜作り等が行われていました。実際に施工してみると、思いもよらない事態も起こりますが、知恵を出し合いながら協力して施工されていました。一人一人が主体的に、そして楽しそうに作業されており、熱意を持って参加していることがよく分かりました。みんなで一緒に何かを作り上げた経験は、これから先の社会人生活でも、きっと大切な財産になると思います。



ピザ釜作りは試行錯誤で製作中



作業工程をミーティング中。みなさん真剣です



腹が減ってはリノベはできぬ



なぜ坂を上るのか？そこに石段の家があるから

今回のプロジェクトには炊事班もいらっしゃいました。炎天下の作業を支えたのが、炊事班の皆さんの働きでした。リノベ班、石釜班、作業班のモチベーションは食事が支えていたといっても過言ではないでしょう。近所の方から岡山の桃の差し入れがあり、我々もご相伴にあずかりました。



笑顔で集合写真！

今回の見学に当たり、建築学分野 光井先生、機械工学分野 上寺先生には大変お世話になりました。学生を温かく見守られ、学生の自主性を大切にされ、そして時には学生さん以上に行動されている先生方を拝見すると、本当に頭が下がります。

次ページで、完成した様子を、光井先生にご紹介いただきます。学生さんのリノベーション成果を、ぜひご覧下さい！

石段の家2号館リノベーションプロジェクト ～改修後の2号館でイベントを開催しました～

呉工業高等専門学校 建築学分野・助教 光井 周平
機械工学分野・准教授 上寺 哲也

8月6日から9日にかけて、有志の学生が集まって床の改修作業を行いました。昨年度も一部改修を行いました。4月に学生が話し合った結果「若者のチャレンジを生み出す場」としてイベントスペースに改修するという方向性が定まり、今回の第2期改修作業の実施となりました。4日間の学生の頑張り、2号館はすっかり印象の違う空間になりました。



改修作業終了後の2号館

前ページまで石段の家2号館の改修の様子についてご紹介をいただきましたが、ここでは改修作業後に開催された地域のイベントの様子についてご紹介したいと思います。

9月4日(日)に開催された「トビキリ夏祭り」は、呉市内の有志で実施されているイベントで、今年で7回目の開催となります。主催者の方が石段の家2号館を管理されているNPOのメンバーだったこともあり、今年度はぜひ石段の家を会場に実施したいとお話をいただきました。三条と両城とを結ぶ区間に地元で「七曲り」と呼ばれる坂道がありますが、今回はその七曲りと石段の家を使って飲食や雑貨、ワークショップなどのブースが立ち並ぶイベントを開催することとなりました。

石段の家プロジェクトは共催という形で企画段階から参加させていただきました。ここまで大きな規模のイベントに関わった経験がないメンバーばかりで最初はとまどいましたが、学生たちは「ボールスライダー」「石段の家オリジナルグッズ製作」「大声大会」を企画。改修の際に製作したピザ窯はプロの方に使っていただくことになりました。

当日は心配された天候も何とかもって大盛況でした。改修された2号館を拠点として、両城、そして呉を元気づける取り組みを学生から発信してもらいたいと思います。



雑貨屋や古本屋が outlet



学生が製作したピザ窯でできたプロのピザ！



子どもに好評だったボールスライダー



最後は七曲りでバルーンリリース